

地元愛

19日に途中まで作成しかけた『校長室から』を、遅くなりましたが本日紹介いたします。野球好きの私がネットでみつけて、『いいな!』と思い、個人的な意見を付け加えたお話です。

いつものようにネットでニュースを閲覧していて、ある記事に目が留まりました。それは以下の内容です。

九州国際大付高の最速 146 キロ右腕、山本大揮投手（18）が福岡六大学リーグで 5 季連続優勝している九州産業大学に進学し、4 年後のプロ入りを目指す。地元九州からプロ入りを目指すことを決めた。明治神宮大会で優勝経験もある九産大へ進学し、全国舞台での活躍を誓う。最速 146 キロで巧みな投球術と抜群の制球力を誇り、高校の監督からは、「山本に課題は全くない」と太鼓判を押されていたが、ドラフトでの指名はなかった。「もっと頑張らないといけないと思った」とすぐに気持ちを切り替えた。4 年後のプロ入りを目指して選んだ進路が九産大だ。関東の大学からも誘いはあったが、監督から「九州の選手は九州に恩返しを」と言われ、地元に残ってプロを目指すことを決めた。「神宮で優勝して大学日本代表に入りたい」と当面の目標を抱く。大学野球の聖地である神宮球場はもう視察済みだ。後輩たちが九州大会で優勝し、明治神宮大会に出場した際、打撃投手としてチームに同行し、スタンドで応援した。「広く感じました。後輩もマウンドのことを教えてくれて、ここで投げたいと思った」。高校では経験できなかった全国舞台のマウンドで飛躍を目指す。

以上の内容でした。もちろん、全国大会やトップをめざし、関東や関西、他地区に出ていくことも良いと思います。個々の判断ですので、正否はありません。

私がこの記事を読んで思ったことは、別の考えからです。それは、コロナ禍での太宰府西中学校の教育活動に関することです。このコロナ禍で、太宰府西中学校では、コミュニティ・スクールとして地域に出て活動することができていません。地域行事も相次いで中止となっています。校長としては、『将来地元に戻った時に地元で活躍できる生徒を育てたい。そのために中学校時代に、地域と連携した教育活動を行いたい』と日々思っています。しかし、コロナ禍でそれが叶わず、もどかしい思いでした。その時、この記事を目にして、個人的に嬉しくなりました。『地元を愛する気持ち』『地元で頑張ろうとする気持ち』がいいなと思ったからです。山本選手には今後、福岡県で活躍し、全国大会に出場し、そして将来プロ野球選手になってほしいと思います。地元で活動する選手ですので、これから応援していきます！

ちなみに九州国際大学付属高校が春の選抜大会で準優勝した時のバッテリーは、福岡市東区と北九州市戸畑区出身でした。私は、地元出身の選手は、プロ入り後も応援しています。地元のプロ野球球団も好きですが、福岡県からプロ野球に入った選手は、どこのチームであっても、皆、応援したいと思っています。自分自身『福岡県が好きだな、地元愛が強いな』と思っています。福岡県民は、他県より地元愛が強い人が多い気がします。気のせいでしょうか？

なお、この話に少し関わる話ですが、昨年 11 月に、あるテレビ放送局で『福岡県の知られざる魅力を大発掘!! 福岡ゲンジン第 2 弾』という番組が放送されました。こちら私は個人的に大変、興味を覚えた番組でした。福岡県出身の芸能人の方がインタビューで地元の美味しい店やお祭りなどを紹介していました。その中に、子どもの頃よく木登りしていた木を紹介していた芸能人がいました。その方は現在 21 歳で、女性アイドルグループの一員です。特に面白かったのは、『2 年程前に帰省した時も、その木に登った』と言っていたことです。この話を聞いて、思わず笑ってし

まいりました。およそ 19 歳の女性、それも現アイドルタレントが、地元に戻って木登りをする、という行為がなんとも微笑ましかったです。

しかし、逆のことに気づきました。地元愛です。そう言えば私も、地元に戻ると行きたくなる場所、ふと見たくなる場所があるな、と思い出しました。『小さい頃、ここでよく遊んだなあ〜』と思い出し、懐かしさに浸ることがあります。

多くの人にとって自分が生まれ育った場所は、いくつになってもかけがえのない思い出が詰まった場所です。

太宰府西中学校においても、コロナ禍に負けず、コミュニティ・スクールを推進することで、地元愛をしっかりと育み、地元を愛し、地元で活躍する生徒を育成したいと思います。